

第3号様式 (第6条関係)

協働事業実施計画書

協働事業名	～人が「働く」と書いて「働か」企画 第6号単 ＊精神疾患をお持ちの方の「働き方」と [REDACTED] 緊急企画「生きづらさを抱える人のコロナ禍での「働く」とは？」
事業の目的	・市民に対して、生きづらさを抱える人への差別や偏見をなくして頂くこと、生きづらさ(主に精神面など)あっても同じ人間であり、日々、生きづらさを抱えながら生きて就労している人達が、この前代未聞のコロナ禍で、どのように働いているのか、どんな変化があるのか、どんな景観影響を受けているのが共有して前へ進む。
事業内容	・生きづらさを抱える精神疾患当事者のコロナ禍での状況報告。 ・一般就労している精神疾患当事者がコロナ禍によって、どのように景観影響を受けたか、どんな支援があったら良いか。 (講師、観客ともにリモートでの参加も可能にしたい)
スケジュール	・はぴふらいの紹介 ・新型コロナウイルス感染症対策について ・生きづらさを抱える当事者による講演 ・ネットを利用した交流 等
協働の効果	・会場が確実に確保できることで、負担が大きい会場費や手配等が削減され、負担が減る。 ・精神疾患を持つ人を含めた生きづらさを抱える人に対する理解や、緊急事態の時にこそ必要な自助グループの意義について、行政も含め市民に働きかけることが期待できる。
役割分担	(市民活動団体の役割) 市民に対する、生きづらさを抱えた人への理解を促し、共に生き共に働くこと、又、このコロナ禍における状況変化について知ってもらう。
	(市の役割) 会場確保、周知リサーチ(ホームページ、Facebookなど) 後援名義の使用を認める。